

---

# 珈琲倶楽部

蝉之森散歩

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

珈琲倶楽部

### 【コード】

N5202M

### 【作者名】

蝉之森散歩

### 【あらすじ】

大学生とはかく在るべきであり、かく在るべきではない。

その一厘が、歯車をぶち壊す。

窓枠の外の未来を、ただ漠然と、しかし確実に眺めていた。

これから起こるであろう事象の殆どを知っている私は、その殆どの中に含まれていないごく僅かな事象によって、ことごとく打ちのめされる。

ある朝、アパートを出た瞬間に落とされた小鳥の糞も避けることが出来たし、昨晚の俄雨による薄汚い水たまりの上を、揚々と走るダンプカーの荒ぶる水飛沫をも完璧に、いや、華麗に避けることが出来た。

しかし何故だろうか。

今日もまた、糞や泥水に塗れる以上に屈辱で破廉恥な事象が私を待っている気がする。

悲しいかな、その屈辱で破廉恥な事象は、毎朝決まった停留所の隅で虎視眈々と私に視線を送り続けるのだ。

物凄くイライラする。目の下にはクマが現れ、不本意な場所に不本意なニキビが出来た。白髪も目立つ。ストレスが私の四肢を、目に見える形で侵食した。

尚かつ許せないのは、私の四肢を侵食するストレスが、まるでマシユマロの如き甘く、柔らかな、たった一つの「言葉」だからである。

諸君、耳を塞ぐのなら今のうちである。

私は諸君らに私の苦しみ、怒りを伝うべく意を決し、クマもニキビも白髪をも恐れず、この言葉を口にしようと思う。その上、諸君らに危害が及ばぬよう、希望者は耳を塞ぐようにと、仏陀の如き慈善的英断をもって注意を促しているのだ。

それでも聞くというのならば好きにするがいい。

「おはよう」

これでまた私の四肢はストレス、いや底知れぬ黒い呪文によって侵食されてしまった。目の下にクマができ、不本意な場所に不本意な・  
・。

いや、もうお分かりだろう。

私の頭上に広がる大空の長は、悲しみに暮れる私をオカズに天の飯を食らうのだ。絶対にそうである。そうでないはずがなかるう。

おお神よ。馬鹿馬鹿しい。今すぐ降りてこい。

煙草に火を付ける。

憧れであったフランスのとある煙草は、一口吸った後に猛烈な吐き気と息苦しさを呼び、それでも尚吸い続けた私はついに床に臥してしまった。

喉の一番もどかしい所を、枝のように細い少女の人差し指でコチヨコチヨされているならまだ良いものの、現状は人工芝でゴシゴシされるが如きである。

苦しさを越えて、情けなくなった。

その日以来、私は世間体を顧みなくなった。

大学では、専攻していた分野に僅か8日で飽きてしまい、しかしこの環境自体を捨ててしまう勇氣も無ければ、うやむやながらも順応してしまっている自分がいたので、私と共に奈落の底まで落ちて行くであろう、超早熟型怠惰人と形容出来る学友と、くだらない、地元言葉でいうしょーもないサークルを立ち上げる事にした。

というもののその動機が、語るのも辛いほど不純なもので、設立のために学生課へ赴いた際に、案の定その不純さが見事なまでに現れてしまい、当初の目的であったとあるモノを受け取るどころか、部

室も、更にはサークルという肩書きまでをも剥がれる結果と相成った。不本意である。

活動内容の曖昧さ、思い返せば行き当たりばつたりのまま放置した部分が大半であり、一体何をするためのものか、という、猿でも分かる最低限の決め事であり核心でもあるマニフェストを放置してしまつた結果である。

そんな事すら思いつかなかつた私達には、生への希望すらないかと思われた。

結局、物凄くブラックな手段で「部室」を確保した。

構内で一番古い棟の最下階に位置する、放逐され続け、古今東西あらゆる虫達の巣窟と成り下がつた何とも悪趣味な一室を、強引に、といつても気付く人すら居ないのだが、とりあえずその一室を押収した。

学生課窓口で味わつた、あの全身の毛穴が開くが如き屈辱は、「動機」というものに必要以上に固執させた。

思えば、サークルを作ればある程度の資金が支給される、という不純の極みとも言えよう心裏の動機を何故表面に、しかも全面的に見せつけてしまつたのか。自己嫌悪してしまふ。いや、そんな事で自己嫌悪している自分に自己嫌悪してしまふ。だめだこりゃ。

私達は、あまりにも紆余曲折すぎた時間を取り戻すべく、このなんちゃってサークルの本質である活動内容を、あらゆる欲に目もくれぬほど執着した。

そして考えついたのが、コーヒーである。

朽ちろ。(私が)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5202m/>

---

珈琲倶楽部

2010年10月10日17時37分発行